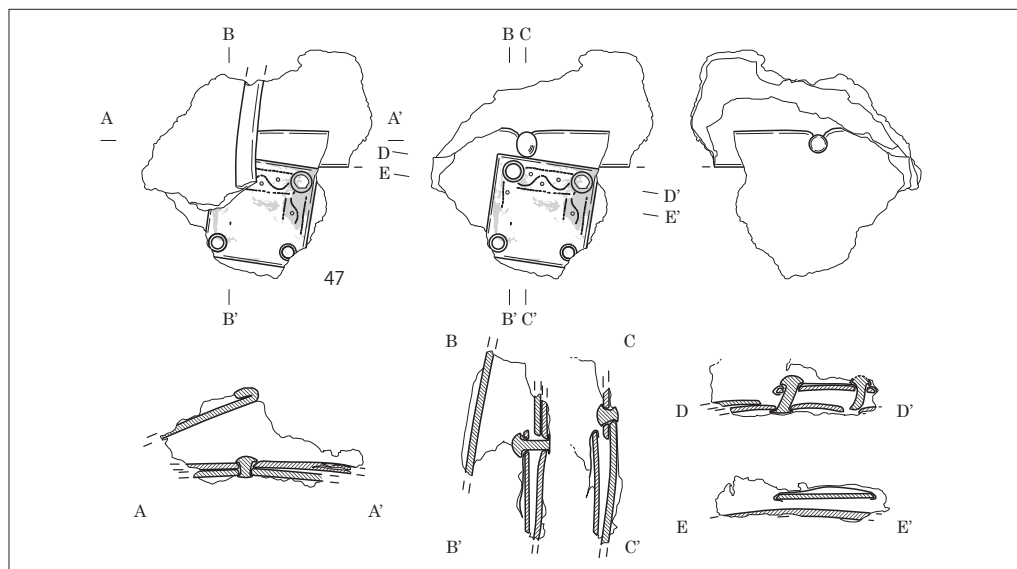
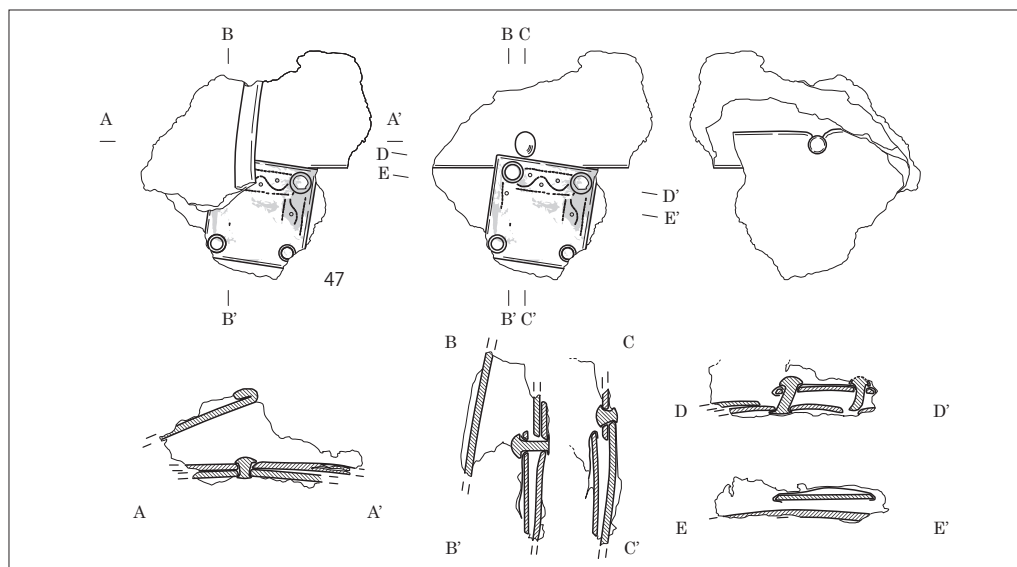


訂正箇所	誤	正
1 頁_第 1 節_10 行目	1977 年(昭和 52)年 3 月	1977(昭和 52)年 3 月
5 頁_下段_古墳一覧	41 袖ヶ浦市 鼻欠 4 号(円 27m)	41 袖ヶ浦市 鼻欠 4 号(円 13m)
22 頁_14 行目	(第 3 章第 3 節)	(図版 35)
36 頁_第 4 節_「鉄剣(3～5)」の項_8 行目	茎尻片(3)は、茎尻と目釘孔 1 孔が遺存する。	茎尻片(4)は、茎尻と目釘孔 1 孔が遺存する。
36 頁_第 4 節_「鉄剣(3～5)」の項_11 行目	剣身部片(4)は、辛うじて刃部両端が遺存しており、	剣身部片(3)は、辛うじて刃部両端が遺存しており、
36 頁_第 4 節_「鉄剣(3～5)」の項_12 行目	茎尻片(3)と同一個体であるかは不明だが、	茎尻片(4)と同一個体であるかは不明だが、
43 頁_第 27 図_※画像差し替え有_下記参照	—	—
92 頁_「象嵌線の質量密度について」の項_4 行目	象嵌溝に象嵌線の一部が依存した	象嵌溝に象嵌線の一部が遺存した
134 頁_第 245 図_※画像差し替え有_下記参照	—	—
134 頁_第 245 図_キャプション	長谷寺観音菩薩立像銘(702 年)	根津美術館蔵光背(658 年)
134 頁_第 246 図_キャプション	小治田安麻侶墓誌(729 年)、	小治田安万侶墓誌(729 年)、
138 頁_(32)の文献名	(32) ホンスンウ 2021「昌寧校洞 11 号墳出土銘文刀も見直し」	(32) ホンスンウ 2021「昌寧校洞 11 号墳出土銘文刀の見直し」
141 頁_第 254 図_5 の銘文	兎名多加披次獲居	其兎名多加披次獲居
152 頁_第 10 表_「新沢 173 号」_「鋌頭径」	太	太?
152 頁_第 10 表_「稲荷台 1 号 中央施設」_「覆輪」	上: 鉄折 下: 鉄折	上: 鉄折? 下: 鉄折?
153 頁_27～28 行目	長頸腸扶片刃式の鎌長は 10.6～11.7cm である。	長頸腸扶片刃式の鎌長は 10.1～11.3cm である。
155 頁_第 11 表_※表差し替え有_下記参照	—	—
158 頁_20 行目	希少な象嵌銘をもつ点で共通し、	希少な象嵌銘をもつ点で共通し、
178 頁_第 267 図_キャプション「SE 区」内容	土師器高杯(25～30・32・34～39・53～58)	土師器高杯(24～30・32・34～39・53～58)
199 頁_21 行目	TK208 型式の須恵器杯身 3・蓋杯 3・甕 1・高杯(器台) 1・甕 1 が伴う。	TK208 型式の須恵器杯身 3・杯蓋 3・甕 1・高杯(器台) 1・甕 1 が伴う。
199 頁_22～23 行目	周溝北部には周溝内に土坑があり	周溝北部には底面に土坑がある。
201 頁_7 行目	椎津稲荷山古墳	市原市椎津稲荷山古墳
205 頁_「はじめに」の項_10 行目	こうした意図のもと、	こうした意図のもと、
205 頁_「1. 稲荷台 1 号墳の概要」の項_12 行目	長頸別造り片腸扶三角形 1・別造り腸扶をもたない三角形 1・	長頸別造り片腸扶三角形 2・
208 頁_27 行目	それらの淵源に王賜銘刀剣を位置付ける視点も提示された。	それらの淵源に王賜銘鉄剣を位置付ける視点も提示された。
209 頁_「3. 保有する武器・武具」の項_11 行目	別造り腸扶もつ長頸鎌を含んでおり、	別造り腸扶をもつ長頸鎌を含んでおり、
209 頁_「3. 保有する武器・武具」の項_15 行目	(第 1 章第 2 節)	(第 2 章第 4 節)
209 頁_「3. 保有する武器・武具」の項_20 行目	(第 3 章第 2 節)	(第 3 章第 4 節)
DVD-ROM 収録_D2 頁_7 行目	第 7 表の②～⑥の廣漢郡の銘を持つ	第 7 表の③～⑩の廣漢郡の銘を持つ
DVD-ROM 収録_D5 頁_12 行目	馮素弗墓出土銀象嵌鉄鏡の「なめくり象嵌」は	馮素弗墓出土金象嵌鉄鏡の「なめくり象嵌」は

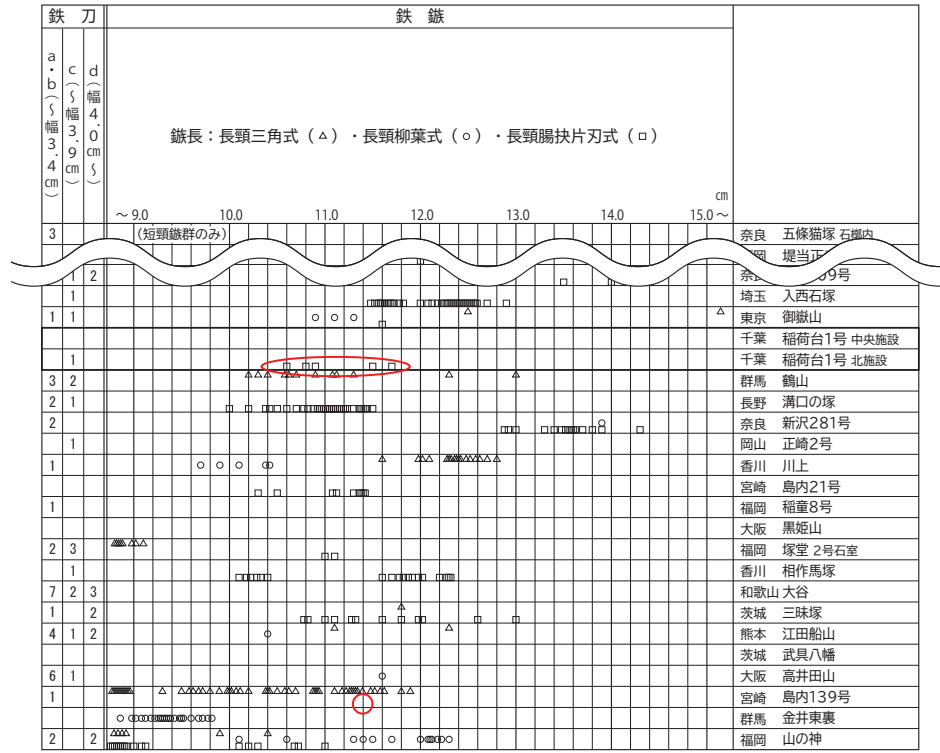
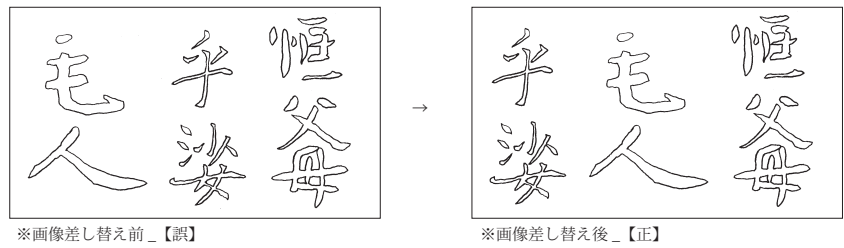
43 頁_第 27 図



※画像差し替え前_【誤】

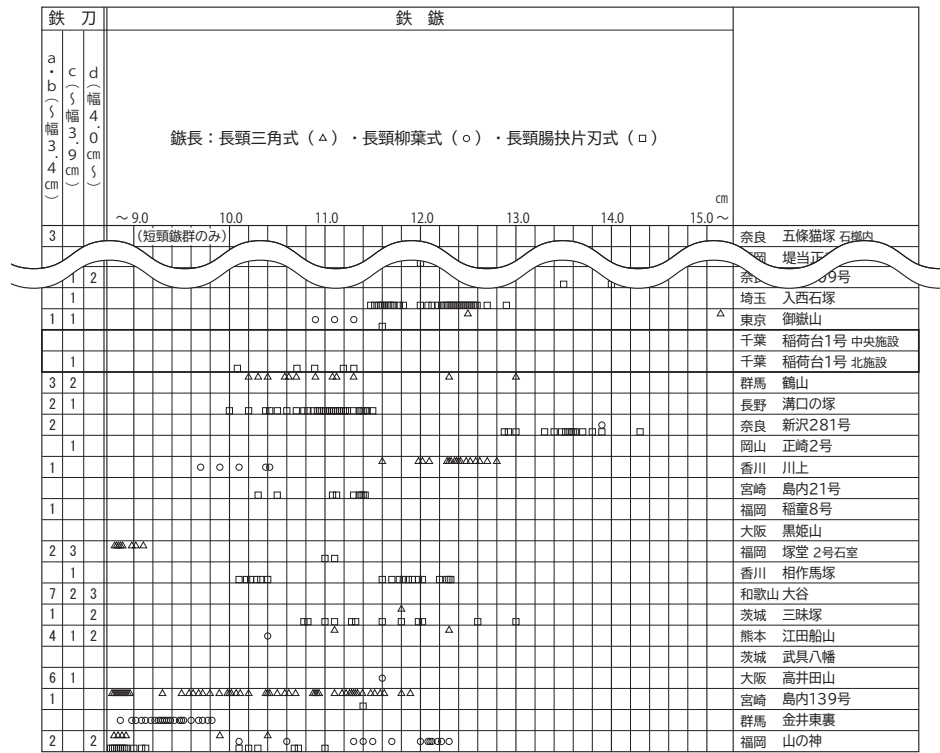


※画像差し替え後_【正】



※表差し替え前_【誤】

↓



※表差し替え後_【正】

(※本文掲載の 3/4 サイズ)